

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	太白だんだん			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~ 令和7年 2月 14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数)	12人
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~ 令和7年 2月 14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所名にある“みんなのおうち”が、多くの面で実現していること。（共生型施設で世代・年齢・性別・障がいの有無を越えた職員と利用者の関係をもとに、互いに成長や学びを持ちながら生活する場となっている）	サービスの提供を受ける側・提供する側、といった意識にとらわれず、誰もが対等で尊重し認め合える環境作り。事業所でありながらも、生活の場としての意識を大切にしている。そういう中で、児童やご家庭との距離感を縮めながら、コミュニケーションを図り、ともに事業所を運営していくよう考えている。また、卒業生の家庭・就労（生活介護）とは異なる3つの居場所として、いつでも受け入れを行っている。	共生型ゆえに複数展開している事業の職員等に、より子どもたちについての協力体制や共有の体制を高め、職員全員で子どもたちを受け入れていく環境作り。
2	立地や建物の作りが良い。	商業地と自然のバランスが良く、地下鉄やJR等の公共交通機関が近い立地で、活動の中に地域の社会資源を積極的に活用していくことを大事にしている。結果として、事業所内のみにとらわれず、活動の選択肢が広がり、様々な活動を通して、子どもたちに多くの経験をしてもらえるよう関わっている。 また、建物自体も共生型施設で同一建屋内に複数の事業がある作りとなっているため、扉1枚ですぐに戸外ではなく、上下移動や多くの人の目に触れることで、子どもたちの安全を保障することが出来ている。放ディとしては2Fに位置するため、大きな窓からの採光により、プレイルーム自体が明るい環境となっている。	今ある、立地条件や建物といった資源の活用を今後も維持継続し、それを活かした活動を発想力豊かに展開していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや保護者の方対象の研修の機会、保護者会の開催など、ご家庭同士の交流等を図る機会の少なさや、周知の不足。	実施していない、ということではないものの、事業所として行っている活動や支援、保護者の方が参加できる行事等に対しての発信力や広報力が弱いと考えられる。	行っている活動・支援や機会を設けている内容について、通信や記録をはじめ、別紙等でご案内を行っていくことで、よりご家庭への周知を図っていく。
2	実際に事業所として実施しているがらも、保護者回答で「分からない」の回答が多く見受けられたこと。	事業所として行っている活動や支援の内容等に対しての発信力や広報力が弱いと考えられる。	
3	実際には実施していたり、整備した上で事業所運営を行っているが、職員からの回答に、「いいえ」が散見されたこと。	時差勤務や休みといった要因により、密度の高い情報や意識の共有を図ることが難しい場面があると思われる。	職員間の引継ぎや共有を、より丁寧に、より要約的に記録や口頭で行っていく。 また、自身が不在であったり、分からぬことがあった際に、自分から積極的に確認を行う意識の醸成と、確認しやすい環境作り。